

アメリカ合衆国大学生の仮想的有能感

速水敏彦 野崎与志子¹⁾ 梅本貴豊²⁾

問題

10年ほど前の日本の若者の観察から「仮想的有能感 (Assumed competence)」という概念が生まれた。その概念は「自己の直接的なポジティブ経験に関係なく、他者の能力を批判的に評価・軽視する傾向に付随して習慣的に生じる有能さの感覚」と定義される。そして、この概念は厳密には「他者軽視に基づく仮想的有能感」と記述される。有能感 (Competence) という心理学的構成概念はいうまでもなく、White (1959) により提唱されたもので、「環境と効果的に相互交渉する能力」とされ、能力と動機づけの両面をもつ概念であるが、より広義には自信と同じような意味で使われている。そして有能感は現実の経験の中で形成・発達していくものと考えることができる。仮想的有能感がそれに「仮想的」と冠しているのは本物でないことを意味している。そして、特に他者を軽視することに伴い生じる本物でない有能感をこの概念は指している。ただし、仮想的有能感そのものは必ずしも個人に意識されているわけではない、むしろ無意識的である場合が多いように思われる。

さて、そのような仮想的有能感を測定するにあたって我々は意識化されている他者軽視傾向の側面を質問紙で捉えることを考え ACS-2 (Assumed Competence Scale version2) を作成した (Hayamizu, Kino, Takagi, & Tan, 2004)。そして、この他者軽視傾向を仮想的有能感得点とする方法で様々な研究を行っている。たとえば、年齢との関係 (Hayamizu, Kino, & Takagi, 2007)、動機づけや感情との関係 (速水・小平, 2006; 小平・小塩・速水, 2007)、いじめとの関係 (松本・山本・速水, 2009) などである。

ところで仮想的有能感はどのようにして形成されるのだろうか。仮想的有能感の文化的形成要因の一つに速

水 (2006) は個人主義の浸透をあげている。個人主義が先鋭化したことが人間関係の希薄化を招き、自分以外の人間についてじっくり知ろうとしなくなったために、簡単に人を見下したり軽視したりするようになったものと思われる。さらに競争が激化した結果としての格差社会というものの到来と無関係ではない。厳しい競争に晒されるなかで、敗者としてみられたくない、なんとか勝ち組に留まっていたいという気持ちが仮想的有能感を生じさせているともいえる。だとすれば日本の若者に比べて個人主義や競争が顕著な欧米の若者の方が他者軽視傾向が強く、仮想的有能感を持ちやすいと考えられる。

本研究での第一の目的はアメリカの大学生を対象にして仮想的有能感を測定し、かなり高いものであることを確認することである。また、その背景には個人主義-集団主義を想定しているので、その傾向についても確認しておきたい。具体的には本研究では高田 (2000) による相互独立的一相互協調的自己観尺度を用いて検討したい。もちろん、前者が個人主義、後者が集団主義にほぼ対応しよう。つまり、アメリカの大学生は相互独立的自己観が相対的に高く、その高さが仮想的有能感の高さに反映していると予想される。

さらに、われわれの研究では自尊感情も同時に測定し、有能感タイプに分類して検討する方法も用いている。なぜ、その方法も併用するかといえば、我々の仮想的有能感の定義で「ポジティブ経験に関係なく……」としているが、実際には他者軽視傾向を測っている。そして他者を軽視する場合には、実際に自信のあるポジティブ経験の豊かである人が相手を頼りなく思い軽視することも考えられ、そのあたりをできるだけ区分しておくためである。すなわち自尊感情で測られたものが真の自信に近いものと仮定すれば、自尊感情の高い人でもかつ仮想的有能感の高い人の中にはポジティブ経験がないため他者軽視をする人もかなり含まれていると考えられる。一方、自尊感情の低い人にはポジティブ経験に関係なく他者軽視をする人が多いと考えられるためである。つまり後者のタイプの人たちに、我々の定義にそった仮想的有能感をもつ人が多いと考えられるからである。有能感タイプの

1) University at Buffalo, The State University of New York.

2) 名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程 (後期課程) (指導教員: 速水敏彦教授)

区分は単純で、それぞれの平均値で4分して4つの有能感タイプを抽出している。すなわち、仮想的有能感高、自尊感情高の全能型、仮想的有能感高、自尊感情低の仮想型、仮想的有能感低、自尊感情高の自尊心型、仮想的有能感低、自尊感情低の萎縮型に4分類している。

本研究は、本来、アメリカの大学生のデータのみで、日本の大学生のデータを同時期に取っていないが、比較のためにHayamizu et al. (2007) で得たデータなどを用いることにする。その日本の大学生のデータでは他者軽視の平均(標準偏差)は29.88 (6.81)、自尊感情のそれは31.10 (7.34)であった。また、有能感タイプの割合に関しては全能型12.5%、仮想型22.2%、自尊心型30.7%、萎縮型34.7%であった。日本の若者に比べてアメリカの若者の自尊感情が高いことはかなり以前から多くの研究で指摘されている(例えば、河地2003)ことを勘案すると、アメリカの大学生は仮想的有能感も自尊感情も高いと予想されるので有能感タイプでいえば全能型の占める割合が高く、萎縮型の占める割合が低いと予想される。この予想を検討することが第二の目的である。

第三の目的は仮想的有能感と日常生活の情報収集の仕方、尊敬や目標とする人物、家族・友だち・先生とのコミュニケーション、テレビをみたりネットサーフィンをしたりする時間、携帯電話の利用回数などとの関連をみることである。大まかな予想では仮想的有能感の高いアメリカの学生は独断的なので地道な情報収集はあまりせず、尊敬する人物も少ない、さらに他者とのコミュニケーションが少なく、その代わり一人でメディアを使うことが多いと予想される。

方法

調査参加者

ニューヨーク州立大学Buffalo校大学生 男子学生83名、女子学生85名の計168名 人種の内訳は黒人7名、白人125名、ヒスパニック10名、アジア人17名、その他9名

調査内容

質問内容は次のようなものである。なお実際に配付された英語版の質問項目は補足資料1のとおりである。

- A 他者軽視に基づく仮想的有能感：速水(2006)のACS-2の11項目である。実はこの尺度はすでにHayamizu et al. (2004)で英語版がだされているが今回、英語に関して幾分修正している。
- B 情報の授受：次の4項目について5段階評定(1.全くしない、2.ほとんどしない、3.ときどきする、4.よくする、5.いつもする)で回答を求めた。「余暇に読書を読みますか」「テレビや新聞のニュースを

読みますか」「人が話すことをしっかり聞いていますか」「人に心からお礼を言いますか」の4項目。

- C 自尊感情：Rosenberg(1965)により作成された自尊感情尺度の日本語版(山本・松井・山成, 1982)を用いた。この尺度は10項目から構成され、5段階評定(1.あてはまらない、2.ややあてはまらない、3.どちらともいえない、4.ややあてはまる、5.あてはまる)で回答を求めた。
- D 尊敬する人物等：以下のような人が周りにいるか、自由記述で求めた。「尊敬する人または敬愛する人」「自分の身近で目標としたい人」「自分の力不足を素直に認めさせてくれるような人」の3項目。
- E 自己観の文化差：高田(2000)による相互独立的一相互協調的自己観尺度を用いた。本来は20項目あるが短縮版を用いたので10項目であった。また原版は7段階評定だが、ここでは5段階評定で回答を求めた。
- F コミュニケーション：身近な人(家族・友だち・先生)と普段の生活でどれほどコミュニケーションしているかを次の4項目で尋ね、5段階評定(1.全くない、2.ほとんどない、3.ときどきある、4.よくある、5.とてもよくある)で回答を求めた。「次の人たちに、日常的あいさつをしますか(例えば、おはよう、さよなら、おやすみなど)」「次の人たちと、雑談をしますか(例えば、面白かったこと、びっくりしたこと、身近な出来事などの話)」「次の人たちに、悩みごとの相談をしますか」「次の人たちから、悩みごとの相談を受けることがありますか」の4項目。
- G テレビ、ネットサーフィンの頻度：次のことをしている時間は、平均して1日あたり何時間くらいかを尋ねた。回答は1時間未満、1・2時間、3・4時間、5・6時間、7時間以上から選択させた。「テレビを見る」「ネットサーフィンをする」の2項目。
- F 携帯メールの頻度：携帯電話を持っているか否かを尋ねたうえで、持っている人に対しては携帯メール利用頻度を「送信数」「受信数」別に一日平均して何通くらいかを尋ねた。回答は5通以下、6~15通、16~30通、31~50通、50通以上から選択させた。

結果

1. 単純集計

- (1) 他者軽視に基づく仮想的有能感：仮想的有能感得点の平均は33.81、標準偏差は6.22であった。
- (2) 情報の授受：各項目の平均と標準偏差はTable 1のと

おりであった。読書やニュースについては「ときどき」に近いが、「人が話すことをしっかり聞いている」とか「人に心からお礼を言う」については「よくする」に近く頻度が高い。しかし、予想したように特に情報を拒否するような傾向はみられないといえる。

- (3) 自尊感情：平均は39.60，標準偏差は6.43であった。
- (4) 尊敬する人物等：「尊敬する人または敬愛する人」「自分の身近で目標としたい人」「自分の力不足を素直に認めさせてくれるような人」それぞれについて出現頻度を示したものがTable 2である。どの項目に関しても両親が相対的に多く挙げられているが、自分の力不足を素直に認めさせてくれるような人だけは友だちが最も多くなっている。この尊敬する人物等の数が多いか少ないかは比較するデータがないので明言できないが、特に少なくはないように思われる。
- (5) 自己観の文化差：相互独立的自己観の平均は19.53，標準偏差は3.65，相互協調的自己観の平均は23.15，標準偏差は5.75であった（この数値については5段階評定でとったものを原尺度の7段階評定に換算している）。
- (6) コミュニケーション：コミュニケーションに関しての単純集計結果はTable 3のとおりであった。あいさつに関しては家族や友だちへのそれは頻繁だが、先生に対しては少ないことがわかる。雑談についても友だち、家族とは多いが先生とのそれは希少である。相談に関しても同様に友だちに相談が最も多く、続いて家族に、先生に相談するのは稀である。相談を受ける場合も上の場合と同様な傾向がみられる。
- (7) テレビ、ネットサーフィンの頻度：この結果はTable 4に示すとおりであった。「テレビを見る」も「ネットサーフィンをする」も最頻値は1，2時間であった。しかし、両者を比べればネットサーフィンの方がより多くの時間を費やしているといえる。
- (8) 携帯メールの頻度：携帯電話を持っている人は167名で、1日の送信・受信数はTable 5のとおりであった。最頻値はいずれも50通以上であった。

2. 有能感タイプ

これまでの研究と同様、仮想的有能感および自尊感情

の平均値を用いて高低に折半し、全能型（高・高）、仮想型（高・低）、自尊型（低・高）、萎縮型（低・低）に分類した。それぞれの人数は、36名（22.0%）、48名（29.3%）、54名（32.9%）、26名（15.8%）であった。欠損値があり4名は分類不可能であった。

しかし、これはアメリカのデータを基にした分類なの

Table 2 尊敬する人物等についての出現頻度

	I	II	III
先生	26	14	11
両親	59	25	23
父親	21	15	13
母親	26	19	9
祖父母	6	2	3
祖父	5	6	0
祖母	3	2	1
きょうだい	11	10	12
おじ	2	0	1
おば	2	4	0
友だち	19	14	57
配偶者	1	0	1
恋人	2	1	11
家族	3	1	2
いとこ	0	2	1
自分	0	2	3
兵士	1	0	0
老人	1	0	0
貧困の人	0	0	1
批判的な人	0	0	1
有名でお金持ちな若い人	0	0	1
女性	0	0	1
牧師	1	1	0
有名人	1	5	2
歴史上の人物	0	1	1
成功に価値をおく人	0	1	0
ボス	3	1	1
コーチ	4	1	2
キャラクター	0	2	0
政治家	1	0	0
いない	0	3	0
N	154	120	132

注) Iは「尊敬する人または敬愛する人」を、IIは「自分の身近で目標としたい人」を、IIIは「自分の力不足を素直に認めさせてくれるような人」を示す

Table 1 情報の授受における各項目の平均と標準偏差

	平均値	標準偏差	N
余暇に読書をするか	3.07	1.07	168
テレビや新聞のニュースを読むか	3.35	0.96	168
人が話すことをしっかりと聞いているか	4.08	0.63	167
人に心からお礼を言うか	4.14	0.73	168

Table 3 コミュニケーションにおける各項目の平均値と標準偏差

	平均値	標準偏差	N
家族にあいさつ	4.59	0.74	168
友だちにあいさつ	4.70	0.52	168
先生にあいさつ	2.87	1.12	167
家族と雑談	4.23	1.02	168
友だちと雑談	4.68	0.60	168
先生と雑談	1.82	0.97	168
家族に相談する	3.80	1.19	164
友だちに相談する	4.24	0.97	164
先生に相談する	1.33	0.56	163
家族から相談をうける	4.10	1.04	162
友だちから相談をうける	4.43	0.81	162
先生から相談をうける	1.15	0.39	162

Table 4 テレビ、ネットサーフィンの頻度

	1時間未満	1・2時間	3・4時間	5・6時間	7時間以上
テレビを見る	48	69	42	9	0
ネットサーフィンをする	29	63	55	15	6

Table 5 携帯メールの頻度

	5通以下	6~15通	16~30通	31~50通	50通以上	欠損
メール送信数	21	26	26	32	62	0
メール受信数	20	25	28	30	63	1

Table 6 仮想的有能感、自尊感情、自己観の文化差の尺度間相関

	仮想的有能感	自尊感情	相互独立的自己観
自尊感情	-.234**		
相互独立的自己観	.043	.469***	
相互協調的自己観	.055	-.295***	-.484***

注) N=166~168

** $p < .01$, *** $p < .001$

で、日本のデータと比較するために日本のデータの平均値によって分類すれば以下になる。全能型110名(67.07%)、假想型15名(9.15%)、自尊型38名(23.17%)、萎縮型1名(0.61%)であった。日本の大学生に比べ全能型が極端に多く、萎縮型が極端に少ないといえる。

3. 変数間の関係

(1) 尺度間相関

尺度として扱っている仮想的有能感、自尊感情、相互独立的自己観、相互協調的自己観の関係をみたものがTable 6である。まず、仮想的有能感と自尊感情の関係であるが $p < .01$ で負の有意な相関となっている。これ

まで多くの人々を対象に両尺度間の関係を検討してきたが、大部分が無相関であった。その意味では今回、アメリカ合衆国の大学生の結果は例外的な結果と言える。また、文化的自己観との関係については、仮想的有能感は両自己観尺度とまったく関係していなかったが、自尊感情については相互独立的自己観とは $p < .001$ で有意な正の相関が、相互協調的自己観とは $p < .001$ で有意な負の相関が認められた。また、相互独立的自己観と相互協調的自己観の間には $p < .001$ で負の有意な関係がみられた。

(2) 仮想的有能感・自尊感情と情報の授受

仮想的有能感および自尊感情と他の4つの項目につい

での相関はいずれも有意でなかった。予想していたような仮想的有能感が高い人が読書をしなかったり、テレビや新聞のニュースを読まなかったりという傾向はみられなかった。

(3) 仮想的有能感・自尊感情とコミュニケーション

Table 7にみるように仮想的有能感とコミュニケーションには負の相関が多い。すなわち、仮想的有能感が高いほど概してコミュニケーションが乏しいことになる。特に、「家族にあいさつ」「友だちにあいさつ」「家族と雑談」「家族に相談する」「家族から相談をうける」は $p<.01$ で有意な負の相関が認められる。したがって仮想的有能感の高い人は特に家族とのコミュニケーションが少ないと推測される。

逆に自尊感情とは正の相関が多い。つまり、自尊感情の高い人ほどコミュニケーションが多いと考えられる。特に「家族にあいさつ」「ともだちと雑談」「家族から相談をうける」「友だちから相談をうける」で $p<.01$ で有意な正の相関がみられる。

(4) 有能感タイプとメディア

有能感タイプとテレビ視聴時間、ネットサーフィンする時間、携帯メール送信数、携帯メール受信数の頻度の関係をみたものがTable 8からTable 11である。しかしどれも両者の間に有意な関係はみられなかった(テレビ視聴時間; $\chi^2(9)=9.81, ns$, ネットサーフィンする時間; $\chi^2(12)=15.38, ns$, 携帯メール送信数; $\chi^2(12)=12.47, ns$, 携帯メール受信数; $\chi^2(12)=14.43, ns$)。

Table 7 仮想的有能感、自尊感情とコミュニケーションとの相関

	仮想的有能感	自尊感情
家族にあいさつ	-.183**	.256**
友だちにあいさつ	-.262**	.107
先生にあいさつ	-.056	-.093
家族と雑談	-.227**	.131
友だちと雑談	-.068	.233**
先生と雑談	-.085	.022
家族に相談する	-.318***	.124
友だちに相談する	-.105	.064
先生に相談する	.035	-.029
家族から相談をうける	-.347***	.288***
友だちから相談をうける	-.083	.205**
先生から相談をうける	.012	-.055

注) $N=160\sim 168$ ** $p<.01$, *** $p<.001$

考察

日本の大学生とアメリカの大学生の仮想的有能感の高さの平均値を比較したところ $t(568)=6.43, p<.001$ で有意差がみられた。すなわち、アメリカの大学生の方が予想どおり仮想的有能感が高いことがわかった。一方、自尊感情についても同じような比較を行ったところ、 $t(591)=12.93, p<.001$ でさらに大きな有意差が認められた。アメリカの大学生は自尊感情もまた日本の学生よりも高かった。後者のことはこれまでにも指摘されてきたことではある。なお、仮想的有能感と自尊感情の関係

Table 8 テレビ視聴時間別における有能感タイプの人数分布

	1時間未満	1,2時間	3,4時間	5,6時間	7時間以上
全能型	7	19	8	2	0
仮想型	19	14	11	4	0
自尊型	13	25	15	1	0
萎縮型	9	9	6	2	0
計	48	67	40	9	0

Table 9 ネットサーフィン時間別における有能感タイプの人数分布

	1時間未満	1,2時間	3,4時間	5,6時間	7時間以上
全能型	6	16	11	1	2
仮想型	13	10	17	5	3
自尊型	8	20	19	6	1
萎縮型	2	14	7	3	0
計	29	60	54	15	6

Table 10 携帯メール送信数別における有能感タイプの人数分布

	5通以下	6~15通	16~30通	31~50通	50通以上
全能型	2	6	4	10	14
仮想型	6	9	10	10	13
自尊型	6	8	8	7	24
萎縮型	6	1	4	5	10
計	20	24	26	32	61

Table 11 携帯メール受信数別における有能感タイプの人数分布

	5通以下	6~15通	16~30通	31~50通	50通以上
全能型	2	3	7	8	16
仮想型	6	11	10	8	13
自尊型	5	8	7	8	24
萎縮型	6	1	4	6	9
計	19	23	28	30	62

はこれまでの多くの調査でほとんど両者は無相関であることが示されてきたが、今回のアメリカの学生の場合は、 -0.234 という有意な負の相関が認められた。これは仮想的有能感が低いほど自尊感情が高く、仮想的有能感が高いほど自尊感情が低いことを意味している。逆からいえば、自尊感情が低いので（自信がないので）仮想的有能感を高めようとするとも見ることができ、仮想的有能感が防衛的に機能しているものと推測される。

さて、アメリカの学生の仮想的有能感が高いことは個人主義の文化の影響を色濃く受けているためと考えてきたが、今回の調査で仮想的有能感と相互独立的自己観の間にはまったく関連がみられなかった。したがって、個人主義的な文化の影響とはいいいがたい。ところで、この文化的自己観については日本でデータをとり発表をしたものがある（木野・速水, 2009）のでそれと比較して考察したい。この日本の大学生のデータでは仮想的有能感と相互独立的自己観の間に両者に $.27$ の相関が示されたので、個人主義の捉え方そのものが日米では異なる可能性がある。また、アメリカの大学生の相互独立的自己観は日本のデータと比較すると、予想される通り高い。その1項目あたりの平均値は日本男子学生 4.10 、女子学生 3.93 に対してアメリカ大学生 4.88 である。一方、相互協調的自己観は日本男子学生 4.89 、日本女子学生 5.17 に対してアメリカ大学生は 3.86 でかなり低いといえる。この結果をみる限り、従来からいわれているように日本は集団主義的、アメリカは個人主義的という文化的差異は明確である。しかし、相互独立的自己観と言うものが日本では利己主義的なややネガティブな意味合いをもつものに対してアメリカでは個人の責任性というようなポジティブな意味合いが強いのかかもしれない。

有能感タイプについてはアメリカの学生は日本の学生に比べて全能型が多いという特徴を持つ。日本の分類基準にしたがえば、アメリカの学生は半数以上が全能型に属することになる。仮想的有能感も自尊感情も両方ともアメリカの学生の方が相当高いので当然の結果ではある。そして、反対の萎縮型は今回のアメリカ大学生は1人が該当するだけであった。仮想型の割合も日本の大学生に比べて低いことになるが、他人を見下し根拠のない自己肯定感をもつ学生がアメリカに少ないかといえば必ずしもそうではないであろう。仮想的有能感と自尊感情に負の相関がみられたことから、自信がないために他者軽視をしようとする仮想型に属する人たちは存在すると考えられる。それぞれの文化での仮想的有能感と自尊感情の基準（平均値）が異なり、アメリカの基準からすれば、やはり仮想型は 30% 近く存在する。有能感タイプによる比較はそれぞれのサンプルの平均を用いている

ことから絶対的なものでないところに問題があるともいえるが、絶対的な一つの基準だけで型をふりわけてしまうのもどうかと思われる。また、今回のアメリカの学生に全能型が多いという結果もよくいわれるようにアメリカの学生が段階評定の両極に反応しやすいという反応傾向による部分もないとはいえないだろう。

第三の目的である仮想的有能感と他の変数との関係に関してはコミュニケーションとの間に顕著な結果が見出された。すなわち、仮想的有能感が高いほどコミュニケーションが少ない傾向が示された。この傾向はこれまでの日本のデータと一致するものである。つまり、コミュニケーションの少なから他人について十分情報を把握していなかったり、親和的な人間関係が形成されないために容易に他者軽視が生じてしまうものと思われる。逆にコミュニケーションを豊かにするよう促進することで仮想的有能感が抑止されることも考えられる。

引用文献

- 速水敏彦 (2006). 他人を見下す若者たち 講談社現代新書
- Hayamizu, T., Kino, K., & Takagi, K. 2007 Effects of age and competence type on the emotions: Focusing on sadness and anger. *Journal of Psychological Research*, 49, 211-221.
- Hayamizu, T., Kino, K., Takagi, K., & Tan, E. 2004 Assumed-competence based on undervaluing others as a determinant of emotions: Focusing on anger and sadness. *Asia Pacific Education Review*, 5, 127-180.
- 河地和子 (2003). 自信力はどう育つか 思春期の子ども世界4都市調査からの提言 朝日新聞社.
- 木野和代・速水敏彦 (2009). 仮想的有能感の形成と文化的要因—大学生を対象に— 日本教育心理学会第51回総会発表論文集, 26.
- 小平英志・小塩真司・速水敏彦 (2007). 仮想的有能感と日常の対人関係によって生起する感情経験—抑鬱感情と敵意感情のレベルと変動性に注目して— パーソナリティ研究, 15, 217-227.
- 松本麻友子・山本将士・速水敏彦 (2009). 高校生における仮想的有能感といじめとの関連 教育心理学研究, 57, 432-441.
- Rosenberg, M. 1965 *Society and the adolescent self-image*. Princeton Univ.Press.
- 高田利武 (2000). 相互独立性—相互協調的自己観尺度に就いて 奈良大学総合研究所報, 8, 145-163.
- White, R.W. 1959 Motivation reconsidered: The concept

資

料

of competence. *Psychological Review*, 66, 297-333.
山本真理子・松井豊・山成由紀子 (1982). 認知された

自己の諸側面の構造 教育心理学研究, 30, 64-68.
(2010年11月15日受稿)

アメリカ合衆国大学生の仮想的有能感

補足資料1

A. The statements below describe how you think or feel about the people around you. Circle the number that best describes how you feel.

1 = strongly disagree
2 = disagree
3 = neutral
4 = agree
5 = strongly agree

- | | |
|--|--------------------------|
| (sample) I am in good health. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (1) There are a lot of insensitive people around me. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (2) Looking at the way others work, I feel that they are inefficient. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (3) I think that there are many people who talk nonsense at a meeting. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (4) There are a lot of people who act arrogantly but in fact are unknowledgeable and uneducated. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (5) I wonder why others could not understand such a simple task. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (6) It seems to me that there are few efficient people around me whom I can trust with important tasks. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (7) When I look at others, I often feel there are a lot of losers. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (8) When others do not support my opinion, I feel they lack the capacity to understand me. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (9) I think that leaders of our country are incompetent. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (10) I think that there are quite a number of people in the world who achieve high status without much effort. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (11) I think that there are too many people who have no common sense. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |

B. How much do you engage in the following activities on a daily basis? Please rate them on a scale of one to five.

1 = never
2 = rarely
3 = sometimes
4 = often
5 = always

- | | |
|---|-------------------|
| (1) Do you read in your spare time? | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (2) Do you watch or read about the news on the TV or the newspaper? | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (3) Do you listen attentively to what other people are saying? | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (4) Do you express your sincere gratitude to other people? | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |

資 料

C. Rate how much you agree with the following statements on a scale of five. Keep in mind what you think of yourself, and not how others see you.

1 = strongly disagree
2 = disagree
3 = neutral
4 = agree
5 = strongly agree

- (1) I feel that I'm a person of worth, at least on an equal plane with others. 1 - 2 - 3 - 4 - 5
 - (2) I feel that I have a number of good qualities. 1 - 2 - 3 - 4 - 5
 - (3) All in all, I am inclined to feel that I am a failure. 1 - 2 - 3 - 4 - 5
 - (4) I am able to do things as well as most other people. 1 - 2 - 3 - 4 - 5
 - (5) I feel I do not have much to be proud of 1 - 2 - 3 - 4 - 5
-
- (6) I take a positive attitude toward myself 1 - 2 - 3 - 4 - 5
 - (7) On the whole, I am satisfied with myself 1 - 2 - 3 - 4 - 5
 - (8) I wish I could have more respect for myself 1 - 2 - 3 - 4 - 5
 - (9) I certainly feel useless at times. 1 - 2 - 3 - 4 - 5
 - (10) At times I think I am no good at all. 1 - 2 - 3 - 4 - 5

D. Are there any people around you who fit the following descriptions? Describe the nature of the relationships (e.g., teacher, parent, friend, etc.). You do NOT need to put the names of specific people. If you don't have any people who fit the description, please skip the question.

- (1) Someone whom you respect or honor
... ()
- (2) Someone around you whom you regard as your role model
... ()
- (3) Someone who can make you realize your shortcomings.
... ()

アメリカ合衆国大学生の仮想的有能感

E. Rate how much the following statements are descriptive of you on a scale of five.

1 = strongly disagree
2 = disagree
3 = neutral
4 = agree
5 = strongly agree

- | | |
|---|-------------------|
| (1) I worry about what people think about me. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (2) So as long as I think it is okay, I don't worry what others think. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (3) I worry about how others observe and evaluate me. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (4) When I have a different opinion with others around me, I stick to my own beliefs. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (5) What I think will depend on those around me, and the situation that I am in. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| <hr/> | |
| (6) I avoid conflicts of opinions between myself and the members of my group. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (7) I always state my opinions clearly. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (8) When my opinions conflict with others, I am likely to accept their opinions. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (9) I always speak and act with self confidence. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |
| (10) I change my attitudes and behaviors according to the those around me, and the situation. | 1 - 2 - 3 - 4 - 5 |

Continued to the next page →

F. How often do the following situations apply to you?
Rate them on a scale of one to five.

(1) Do you **greet** the following people when you meet them? (e.g., say good morning, goodbye, goodnight, etc.)

1 = Not at all
2 = Not much
3 = Sometimes
4 = Frequently
5 = Very Frequently

- ① Family 1 - 2 - 3 - 4 - 5
- ② Friends 1 - 2 - 3 - 4 - 5
- ③ Professor/
Teacher 1 - 2 - 3 - 4 - 5

(2) Do you **discuss trivial matters** with the following people? (e.g., about what you found interesting, amazing, what you recently did)

1 = Not at all
2 = Not much
3 = Sometimes
4 = Frequently
5 = Very Frequently

- ① Family 1 - 2 - 3 - 4 - 5
- ② Friends 1 - 2 - 3 - 4 - 5
- ③ Professor/
Teacher 1 - 2 - 3 - 4 - 5

(3) Do you **confide** in the following people about your personal problems?

1 = Not at all
2 = Not much
3 = Sometimes
4 = Frequently
5 = Very Frequently

- ① Family 1 - 2 - 3 - 4 - 5
- ② Friends 1 - 2 - 3 - 4 - 5
- ③ Professor/
Teacher 1 - 2 - 3 - 4 - 5

(4) Do the following people **share their personal problems with you**?

1 = Not at all
2 = Not much
3 = Sometimes
4 = Frequently
5 = Very Frequently

- ① Family 1 - 2 - 3 - 4 - 5
- ② Friends 1 - 2 - 3 - 4 - 5
- ③ Professor/
Teacher 1 - 2 - 3 - 4 - 5

G. About how much time do you spend on the following activities in a day?
Please circle the range.

- (1) No. of hours watching TV <1h / 1h-2h / 3h-4h / 5h-6h / >7h
- (2) No. of hours on aimless web surfing: <1h / 1h-2h / 3h-4h / 5h-6h / >7h

H. Do you have a cell phone? Yes / No

⇒ If yes, please answer the following questions.

On an average, how many exchanges do you have per day using your cell phone text messaging? Please circle the range.

- ① No. of messages **sent** per day: <6 / 6-15 / 16-30 / 31-50 / >50
- ② No. of messages **received** per day: <6 / 6-15 / 16-30 / 31-50 / >50

アメリカ合衆国大学生の仮想的有能感

international07 (USA/CAN)

Please provide us with some background information about yourself.

① Sex: Male Female

② Age: () years old

③ Ethnic identity (optional):

African-American Caucasian Hispanic

Native American Asian/Pacific-Islander

Others ()

Are you an international student Yes No

If so, how long have you been in this country?

... () years

④ School: Middle school High school College/University

⑤ Year of Study: ()

⑥ Have you ever engaged in any extracurricular activities?

... at school Yes No

... outside school Yes No

ABSTRACT

Assumed Competence Based on
Undervaluing Others Among American College Students

Toshihiko HAYAMIZU, Yoshiko NOZAKI and Takatoyo UMEMOTO

The purpose of this study is to investigate assumed competence based on undervaluing others, and its related factors among college students in the United States. It is hypothesized that American college students would reveal higher assumed competence than Japanese students, as they have more independent construal of the self rather than an interdependent one. The data collection took place in the spring of 2010, in which 168 undergraduate students of the State University of New York at Buffalo participated. Their race/ethnicities included Caucasian, African-American, Hispanic, and Asian. The present study finds that American students showed not only higher assumed competence but also higher self-esteem than Japanese students. In addition, they tended to have high independent construal of the self as expected. However, there is no positive correlation between independent construal of the self and assumed competence, although such a relation was demonstrated among the Japanese students. Analyzing from competence style, this study finds that the majority of American students belonged to omnipotence type (only one student was classified into atrophy type). Furthermore, it also shows that the students with high-assumed competence communicated less with their family than the students with low-assumed competence.

Key words: assumed competence, self-esteem, American college students